



計算機能について

1.1 . 基礎の浮き上がりを考慮した解析が可能

基礎の浮き上がりを考慮した解析が可能です。浮き上りを考慮する支点を設定しておけば、その支点に浮き上がりが発生した場合、支点の拘束を解除し 反復計算を行います。浮き上りの考慮の有無は、解析ケース毎に指定できます。

浮き上がりの判定は、支点反力がマイナスとなった時点で浮き上がったと見なします。下方向の抵抗力となる解析ケースを指定しておけば、その解析ケースの支点反力を加味して（足し込んで）浮き上がりを判断します。浮き上がった支点の支点反力は、リスト出力では「 = 浮き上がり = 」と表示されます。

基礎の浮き上がりによる反復計算は、浮き上がり処理を指定された全 支点について、浮き上がりが生じなくなるまで行われます。繰り返し計算の結果、転倒してしまう場合は「不安定構造物」として扱われます。